



朝日新聞デジタル (7月10日)



避難者救助中のまび記念病院 (7月8日午前JIJI.COM)



産経新聞 (7月8日)



# 7日時点の倉敷市真備町周辺の浸水推定図



## 『ツイッター投稿の 写真や動画を活用』

国土地理院は10日、記録的な豪雨で河川が氾濫した岡山県倉敷市真備町地区の浸水域と、浸水の深さを示した推定図を公表した。一般の人がツイッターに投稿した写真や動画に映り込んだ建築物などから浸水範囲の端を推定し、地理院の標高データと組み合わせて作製した。浸水の深さは推定で最大約4.8mだった。作製した図は1級河川の高梁川に注ぐ小田川が氾濫し、浸水が最も深刻だった7日時点のもの。小田川が合流前に蛇行する地点付近で特に浸水が深くなり、広い範囲で深さ3~4mまで水につかったことが示された。浸水域は堤防の決壊地点から北東側に大きく広がっており、国土交通省によると、最大で約1200ヘクタールに及んだとみられる。国土地理院によると、今回の推定図は倉敷市が事前に作製していたハザードマップともおおむね一致するという。悪天候が続くと雲の影響で航空写真が撮れず、浸水域を示す図の作製が困難になる可能性があったため、地理院は今回の手法で初めて図を作製したとしている。

(7月11日付け毎日新聞の記事より)

※国土地理院提供の図から作製



# 広島県安芸郡府中町の小川、榎川は7月10日午前、突然の土石流に見舞われた。なぜ？



NHKニュース7『広島 府中町 榎川が氾濫 上流で土石流か』[7月10日夕刻に放映されたものを NHK NEWS WEB より転載]

10日午前11時すぎ、府中町本町3丁目付近にある寺山橋で上流から流れてきた大量の土砂や流木が川をせき止め、水が溢れ出した。水は近くの住宅街に流れ込み、府中町は1万377世帯、2万3516人に避難指示を出し、午後4時半現在、町内の7か所の避難所におよそ370人が避難した。川の周辺には小学校や幼稚園などがあり、子どもたちは職員などの誘導で無事避難した。これまでのところ、けが人の情報はないが、複数の住宅が水につかったとのこと。

府中町の住宅街を流れる榎川は、1級河川の太田川の支流にあたる全長4.8キロの川で、県によると、10日午前、土石流が榎川の上流の砂防ダムを乗り越えたのが確認され、さらに上流で土石流が発生した可能性があるとして調べている。県は、川にたまった土砂や流木の撤去を進めているものの、作業が終わるめどは立っていないという。上の写真を良く見ると、①の段階ですでに両岸の堤防や橋の手すりは破壊されており、これ以前にも土石流に襲われていたことが分かる。



国語辞典によれば“みくまり(水分り)”とは「水配り」の意で、山から流れ出る水が分かれる所、とある。右の地形図によれば府中町の北部は正に、そのような所に位置している。砂防ダムを溢れた土石流は、短時間で急流を流れくだる。



地形図をみると、府中町に限らず広島市とその周辺は、丘陵というよりは山地の奥深くにまで都市開発が進行している様子が良く見て取れる。4年前の広島市安佐南区を中心とした土砂災害もそうであったように、都市近郊における宅地開発の宿命であるように思われる。前ページの土石流災害の瞬間は偶々、府中みくまり病院の防犯カメラで撮影されたもので、背後の分水嶺に囲まれた広大な山地の降水量を、小さな榎川一本に負担させることの不合理性がよく現れた豪雨災害ではないかと思われる。



# おわりに

ここでは毎日刻々と報道されている西日本豪雨災害の中から、岡山県倉敷市真備町と広島県安芸郡府中町と云う2つの地域の、互いに性格の異なる豪雨災害に注目してみた。未だ現場を見ていないので、結論を下すことは早計であろうが、それでも気になった幾つかの点を書き留めておきたい。

## 岡山県倉敷市真備町の広域水害について

最初に注目したのは、報道写真の水没した住宅群が平屋建てなのか二階建てなのかと云った些細な点であったが、グーグルマップで現地を探し当て、それらが二階建てのモダンな住宅街と判明した段階で、新たなショックを受けた。すでに倉敷市によって洪水ハザードマップが準備されていたのは大変良いことであったが、今回の被害分布がすでに公表されているハザードマップと殆ど一致していたことが強く印象に残った。もしかすると、東京下町の荒川・隅田川周辺で想定されている洪水ハザードマップも、相当な現実味を帯びており、軽く見てはならないのではなかろうか。

## 広島県安芸郡府中町に突然襲来した土石流について

府中みくまり病院による防犯カメラの映像が何よりも印象的であった。災害の結果だけでなく、災害の瞬間の映像を目にする機会が増えたことは、災害の原因究明にとって大いに有益であろう。しかも、このような土石流は1回だけでなく何度も当地を襲っているようである。

最後に、今回の豪雨災害の犠牲者に心からご冥福をお祈りし、被災された方々には、一日も早く以前の生活に戻れますよう、お祈り申し上げます。